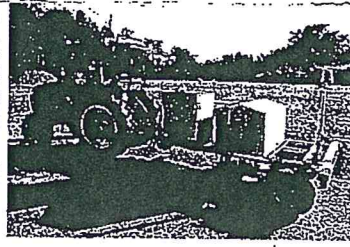


# 福島除染プロジェクト

## 道路側溝対象 仏アレバなど産学



アレバが開発した道路の線量測定車両

東京電力福島第1原子力発電所事故で福島県に飛散した放射性物質の除染事業を手掛ける産学プロジェクトがこのほど発足した。

これまでほとんど手が付けられていない道路側溝などが対象。専用の装置を使うことで効率的に作業できる。初年度に約18億円の見込みを見込

発足したのは「i.f.t. 福島未来国際プロジェクト」。日本大学工学部のふるさと創生支援センター、環境装置開発のセベック（東京・千代田）、丸紅の原発事業子会社の丸紅ユティリティ・サービス、仏原子力大手のアレバなどで構成する。

2014年度内に4自

治体で装置のデモンストラーションを実施する計画。初回は4月12日に福島県大玉村を予定している。

側溝除染では側溝の蓋を外す装置、蓋を洗浄する装置、側溝の汚泥を回収・洗浄する装置、除染に使った水を処理する装置を組みあわせる。人が直接触れないため安全性が高く、処理にかかる時間も短縮できる。

農業用水など除染対象を広げることも検討している。原子力の知見が豊富なアレバのノウハウを活用して効率的な除染手法の開発につなげる。

アレバは東日本大震災以降、池底や道路、森など対象にあわせた線量測定装置を開発したが、ビジネス化は一部に限られていた。

国内勢と組むことで装置が自治体の除染計画に組み込まれやすくなるとみている。